

(3)田辺市立新庄中学校の取組

榎谷 節生 (田辺市立衣笠中学校 教諭)

- 7.新庄中学校は、昭和 58 年に約 21mの小高い丘の上に移転しました。私はそこで 11 年間防災の担当をしていました。
- 8-9.新庄地震学は総合学習が始まった頃、地域の課題が津波災害であるということから学習が始まりました。選択教科の一つとして、3 年生のグループが分かれて 8 教科に沿ったテーマを決めて 4 月から学習を進めていき、週 1 時間の授業を行いました。平成 16 年に音楽を追加して、今現在の 9 教科になっております。毎年 11 月には発表会にて校内の生徒や地域の方々に発表しています。
- 10.平成 16 年の時には立体地図、平成 23 年度は湾の鳥瞰図を作り、そこに LED を使って避難場所の経路を示します。
- 11.滋賀県の彦根工業高校のかまどベンチ制作の許可をいただき、校内にかまどベンチをつくりました。生徒と一緒に作っております。右下の写真は、漁協の女性部が炊き出しをやってくれています。
- 12.本校の校舎は小高い丘の上にありますので、こういった防災横断幕を作って道行く人に啓発をしています。
- 13.一昨年、安否札を 1,000 枚作って敬老会に配布しました。避難所体験や防災カルタ、防災紙芝居を作って幼稚園や小学校で出前授業もやってきました。
- 15.大きな転機を迎えたのが 3.11 です。田辺市に大津波警報がでました。約 300 人の避難の方が来ました。残っていた生徒は校内にとどめて、体育館に留め置きしました。駐車場で係をしていましたので、地域の方がいっぱい逃げてきました。保育園の子どもや、近くの工場の従業員が逃げてきました。17~18 時になったら今度は保護者の方が迎えにきて、まだ大津波警報がでていたので、「まだ危ないですよ」と話しましたが、「塾があるので引き取りにきました」とのことでした。これで引き取ってもらって良いのかなというジレンマもありました。写真は新庄中学校の生徒が、体育館に避難してきた人たちに非常食や毛布を配っている様子です。また、畳 50 枚も生徒たちがひいてくれました。防災教育をずっとやっていたのですが、実際に助けられる立場から助ける側に変わったというこれが大きな転機となりました。こういうことを実施することができて、生徒たちの潜在的能力が高いことがわかりました。また、



第 1 回防災教育推進協議会 in 田辺市
「新庄地震学」の取組み

平成 26 年 11 月 27 日 (金)
和歌山県 田辺市立新庄中学校

1. 和歌山県田辺市について

世界遺産登録10周年
「紀伊山地の霊場と参詣道」

過去の津波被害について

1707年 宝永地震発生
M.8.6 津波の高さ約12m

1854年 安政南海地震発生
M.8.4 津波の高さ約5m

1946年 昭和三陸地震
M.8.9 津波の高さ約4m

和歌山県産 和歌山県産 和歌山県産
和歌山県産 和歌山県産 和歌山県産

新庄駅前道

新庄駅前道

大高神社前の市道

昭和58年 新庄中学校 新築移転

2. 新庄地震学について

- 平成13年に始まりました。今年度で14年目
- 教科と総合学習を関連させた学習
- (週1時間の授業確保)
- 毎年11月に地域の方をお呼びして発表会
- 平成16年 防災教育チャレンジアワード受賞

各教科の取り組み内容

教科	取り組み
1 国語	防災文庫、カルタ、紙芝居
2 社会	地域の歴史、震災語り部
3 数学	数値でみる避難所運営
4 理科	地震のメカニズム、エネルギー
5 家庭	防災の備え、防災マップ作成
6 音楽	防災ダンスの防災教育
7 美術	防災カレンダー、防災すごろく
8 体育	避難所体験、防災かるた
9 英語	かまどベンチ、安否札、避難所体験

過去の新庄地震学の取り組み

H16年 防災マップ

H23年 H24年

かまどベンチ

防災横断幕

安否札 避難所体験

2 日後に生徒会の役員が募金活動を始めました。生徒会の子どもたちが「防災を学んでいる者として、やらなければいけないのでは」という発案からです。市内の近くの大きなスーパー等の入口で募金活動を約 3 日行いました。生徒の一言から始まったこの活動は、市内の各中学校にも広がっていきました。この 3.11 は大きな転機となって取り組みも変わってきました。

20.新庄中学校の防災教育は、「行動スキルを高める」、「防災意識を高める」という 2 本の柱があります。特に防災意識を高める啓発活動が主です。今、正しい行動をとることができるかなどそういう実践学習がこれから必要になってくるかと思えます。

21.子どもの変化は、大震災前は表面上大きな変化はありませんでした。けれど、学びは潜在的に高く、特に震災の際には助けられる人から助ける人に大きく変わった一つの転換期だと思います。震災後は、この取り組みが行政・マスコミ関係団体から注目されて生徒自身も「次は自分たちのところに津波がやってくる」という意識を高く持ちました。その結果、「校外活動のとき、その場からの避難場所を考えるようになった」、「日頃から防災意識が高くなった」、「日頃から自主的な行動判断力、人間関係力が高くなった」などの変化がみられました。また、「家族と再会のことを話し合う」という生徒が増えました。そして「被災地を支援したい」という生徒も増えてきました。さらに、地域の自然や恵みを大切に思う気持ちが強くなり、地域とのつながりを大切に思う生徒が増えました。教員の変化は、震災前は一部の教員が全体をリードして引っ張る構図でしたが、震災後については生徒同様に意識が高くなって、研修とか学年を超えて地震学を担当することで意識が高まっています。保護者・地域の変化については、防災標語の保護者の参加が増え、内容がより具体的になってきた傾向が見られます。発表会の参加人数も増えてきております。

23.去年地震学発表会の 3 年生の御礼のあいさつの中でこのように生徒が言っていました。「私たちの取り組みは決して、大きな取り組みではありません。しかし、新庄地震学の取り組みを進めるうちに人の役に立ちたい、自分たちが取り組んで学んだことをたくさん発信していきたい、これからも新庄地震学をどんどん受け継いでもらいたい、そういう思いが私たちに共通して生まれてきました。私たちは津波なんかには負けない、少しでも役立っていたいと願っています。」最初に地震学を学んだ生徒は 14 年が経って、今 29 歳になっております。成年層となって地域の担い手となっております。卒業生たちが将来にわたって災害に強いまちづくりの地域住民の一人として育っていくことを願っております。防災を学ぶことによって、人と人の絆が深まってふるさと誇りに思う気持ちが高まっていくことを願って、活動を続けていきたいと考えています。



歌とダンスの防災教育

小学校や幼稚園に出前授業



3.11 東日本大震災当日

新庄中学校の体育館

今年度の内容

「つながる～人・地域・過去・未来～」

+	講話	防災標語	かんた
+	地 震	過去の津波写真と現在の様子	
+	震 害	災害を食って運動会	
+	展 覧	地震と津波のメカニズム	
+	展 覧	震い難のぼりプロジェクト	
+	音楽・合唱	歌とダンスの防災教育	
+	展 覧	新庄地震学カンパニーの製作	
+	展 覧	防災ずきん製作	



新庄中学校



今年度の地震学発表会
平成 26 年 11 月 23 日

3. 新庄中学校における
防災教育と
めざしていくところ

防災教育

行動スキルを高める	防災意識を高める
・避難の場所 ・避難の経路 ・避難の準備 ・避難の行動	・危険の認知 ・ふるまひの仕方 ・ふるまひのルール ・被害へのいちわり

自己啓発の意識とスキルを向上
学校における防災教育は集団での学習で身につける。

防災教育による変化

- ① 生徒の変化
 - ・東北大震災前は・・・
 - ・東北大震災後は・・・
- ② 教員の変化
- ③ 保護者・地域の変化

今後おこなってきたいこと

- ・これまでの活動の継続
- ・多くの人と交流、広めていく
- ・中学校 3 年間の計画を立て、行動スキルを高める実践的な防災教育
- ・生徒の意識がどう変化したか調査
- ・教員員の災害時の行動の確認

防災教育を通して・・・

- ・主体的に行動する力
- ・自ら判断し的確な行動をとる力
- ・コミュニケーションをとり協力する力

行動力、判断力、人間関係を築く力を高めていきたい